

調査研究報告書の発行にあたって

協会けんぽは平成 20 年 10 月に設立され、今年で設立から 11 年目を迎えます。

協会けんぽは、国民の 3.2 人に一人、約 3,900 万人の加入者と、約 220 万の事業所からなる日本最大の医療保険者であり、主に中小企業で働くサラリーマンとそこご家族の皆さまに良質かつ効率的な医療を保障し、我が国の国民皆保険の一翼を担っています。私たちの役割は、地域の実情を踏まえた自主自律の運営を行い、都道府県単位で保険者機能を発揮することによって、加入者・事業主の皆さまの利益の実現を図ることです。

協会けんぽでは、平成 30 年 4 月に保険者機能アクションプラン（第 4 期）を策定したところです。その中では、「ビッグデータを活用した個人・事業所単位での健康・医療データの提供」、「データ分析に基づいた第 2 期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施」、「ジェネリック医薬品の使用促進」などの戦略的な保険者機能の一層の発揮を掲げ、また、これらの取組の実施に当たり不可欠となる、研究・調査分析能力の向上を図ることとしております。

平成 30 年 5 月には、「ジェネリック医薬品使用割合 80%の達成に向けて」をテーマに、第 5 回協会けんぽ調査研究フォーラムを開催し、ジェネリック医薬品の使用割合の伸びの阻害要因に関する分析やその結果に基づく提言など、内外に広く意見発信を行いました。それに加え、本部と支部が健診やレセプトのデータを分析し、その成果を多くの学会等で発表したほか、そこで得られたエビデンスを新たな事業に活用する取組を行ってまいりました。

このような調査研究の成果を取りまとめ、広く情報発信を行うとともに、今後の協会けんぽの調査研究のさらなる発展を目的に、今般、「調査研究報告書」を発行いたします。今年度は、過去の蓄積を生かした慢性腎臓病などに関する発展的な分析や、抗菌薬の使用動向、多受診者の実態把握といった、これまでに掲載のなかった分野の分析などが収録されております。

協会けんぽは、加入者と事業主の皆さまの利益の実現を図るため、様々な取組を進めてまいります。今後とも、ご指導、ご支援いただきますよう、よろしくお願い致します。

平成 30 年 11 月

全国健康保険協会
理事長 安藤 伸樹